中城界隈にぎわい企画　第14弾

新 春 講 演 会

私たち「土浦界隈（かいわい）まちづくり研究会」は、中城地区を拠点に、地域コミュニケーションを大切にし、歴史ある土浦のまちの魅力を次世代につなげる活動をしています。おもな活動としては、空き家、空き店舗の活用や「中城井戸端庵」、「コミュニティーサロン聚」、寺子屋「亀楽」を活用した企画、そして、「つちうら亀の市」の運営を主幹として行っています。今回は、日常のにぎわいづくり企画第 14 弾として、「新春講演会」を企画しましたのでご案内いたします。

令和5年２月２３日(木)　天皇誕生日

13:30～15:30　寺子屋「亀楽（きらく）」

（土浦市中央 1－12－5　土浦まちかど蔵近く）

テーマ　「 霞ヶ浦水運と水戸街道 」

講　師　　千 葉　隆 司　氏

かすみがうら市歴史博物館学芸員　茨城大学非常勤講師他

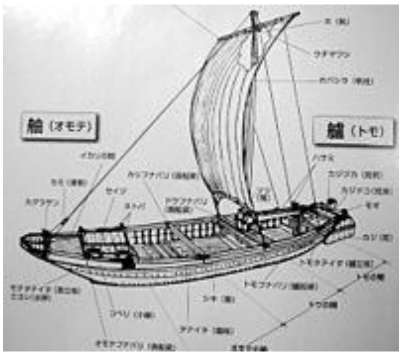
定　員：３０名程度　予め申込みが必要です

参加費：500 円

申込み：080 - 5527 - 3650（山本）

※駐車場は周辺の有料駐車場をご利用ください。

※新型コロナウイルス感染防止のため、中止する場合があります。



◎霞ヶ浦水運と水戸街道

土浦は、古くから交通の要衝として歴史を刻んできました。古代・中世においては、現在の手野・沖宿などの地域が「大津」として水運の拠点となり、市域を縦断する形で古代東海道や鎌倉街道が整備されていました。その沿線には、当時を物語る遺跡や史跡、文化財が所在し、時を超えて我々に歴史ロマンを与えてくれています。今回の講演では、江戸時代の土浦に注目し、川口河岸に代表される水運のまち、さらに水戸街道の宿場町そして９万五千石の土浦藩の城下町として繁栄する様子を紹介します。川口河岸は、土浦の物資のみならず桜川でつながる内陸の物資まで広い範囲の流通を支えました。また醤油の町という顔も川口河岸が大きな役割を果たしていました。一方の水戸街道土浦宿も水戸藩などの武家の往来はもとより旅をする数多くの人々に利用され、旅籠や商家などが立ち並び賑わいを見せていました。交通の要衝としての土浦の歴史を学び、今後の土浦のありかたを考えるヒントになればと思います。

主催：土浦界隈まちづくり研究会

研究会は、令和２年３月１日に土浦市景観まちづくり団体に認定されました。中央一丁目中城地区を中心に、地域文化遺産の継承とまちづくりを推進し、周囲の景観向上に寄与するよう、今後も活動していきます。